

堆肥名：乳牛ふん堆肥A1

備考：クオリティーチャート作成例

成分含有率（現物）等

項目	分析結果		1t当たりの含有量
水分	50.7	%	
窒素全量(N)	1.10	%	11 kg
りん酸全量(P ₂ O ₅)	1.30	%	13 kg
加里全量(K ₂ O)	1.60	%	16 kg
石灰全量(CaO)	1.80	%	18 kg
苦土全量(MgO)	0.70	%	7 kg
C/N比	15.3		
E C (現物:水=1:10)	3.3	mS/cm(25°C)	

堆肥のクオリティーチャートについて

堆肥のクオリティーチャートは、千葉県土づくり大会堆肥コンクールにおける堆肥の発芽試験と成分分析結果等との関係をもとに、成分値から土づくり的堆肥か有機質肥料的堆肥かを表しています。

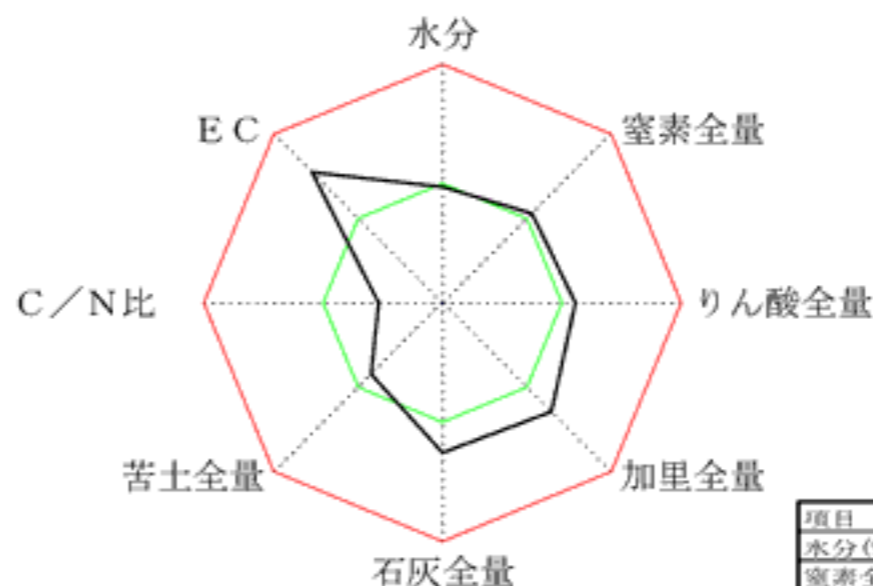
発芽試験は土づくり的堆肥をふるい分けする観点から、堆肥と火山灰土を1:1に混合しコマツナを用いて行います。したがって、肥料成分の多い堆肥や、土壤中で急激に分解する堆肥の発芽率は低くなります。

成分値と発芽率との関係を見ると、窒素含量(現物)が1%を超えると発芽率が低くなる傾向がみられました。また、E C (現物:水=1:10)が2mS/cm(25°C)、加里含量(現物)が1%を超えると同様に発芽率が低くなる傾向がみられました。これらの値を超える堆肥は、施用量によっては肥料成分を考慮して使用したほうがよい堆肥と考えられます。逆に、これ以下のものは肥料的効果より、土づくり的効果が期待できるものと考えられます。

一方、コンクールの審査員による官能検査結果と発芽率との関係を見ると、においの評価の低いもの、すなわち不快臭の強いものは発芽率が低い傾向がみられました。したがって、成分値からみて土づくり的堆肥と考えられても、不快臭の強い堆肥をそのまま使うと問題をおこす可能性があります。

なお、りん酸、石灰、苦土含量については発芽率との間に一定の傾向はみられませんが、1%以上のものを肥料的価値があると考えました。

堆肥のクオリティーチャート



◎チャートは外側に広がるほど肥料成分が多い傾向を表す。(水分とC/N比は逆目盛り)

項目	外枠	内枠	中心
水分(%)	25	50	75
窒素全量(%)	5	1	0.1
りん酸全量(%)	10	1	0.1
加里全量(%)	5	1	0.1
石灰全量(%)	10	1	0.1
苦土全量(%)	5	1	0.1
C/N比	3	10	25
E C (mS/cm(25°C))	5	2	0.1

成分値からみた堆肥利用の目安（該当欄に○が入る）

	窒素含量が少ない、土づくり的堆肥（但し、不快臭の強い場合は脚注1参照）
	E Cが高いので施用量に注意する。
○	窒素含量が多い、有機質肥料的堆肥 (施用量により窒素の効果が期待できる。施肥設計等で堆肥中の窒素分を考慮し使用する。)
○	りん酸含量が多いので、施肥設計等で堆肥中のりん酸分を考慮し使用する。
○	加里含量が多いので、施肥設計等で堆肥中の加里分を考慮し使用する。
○	石灰含量が多いので、施肥設計等で堆肥中の石灰分を考慮し使用する。
	苦土含量が多いので、施肥設計等で堆肥中の苦土分を考慮し使用する。
	C/N比が高いので、さらに堆積するか窒素飢餓等に注意して使用する。

注1) 不快臭の強い堆肥は、さらに堆積するか施用後2~3週間おいて作付けする。